

多様な生涯学習機会の分類について

資料3-2

※加藤委員の意見を踏まえ事務局で作成

	フォーマル教育 (公教育、学校教育)	ノンフォーマル教育 (学校外教育)	インフォーマル教育
概要 (出典:日本生涯教育学会『生涯学習研究e事典』渋谷英章)	高度に制度化され、年齢によって構造化され、階層的に構成された、小学校から大学に至るまでの教育。実際には <u>学校における教育</u> を指す。	学校教育(フォーマルエデュケーション)の枠組みの外で、特定の集団に対して一定の様式の学習を用意する、 <u>組織化され、体系化された(この点でインフォーマルエデュケーションと区別される)教育活動</u> を指す。	あらゆる人々が、日常的経験や環境との触れ合いから、知識、技術、態度、識見を獲得し蓄積する、生涯にわたる過程。 <u>組織的、体系的教育ではなく、習俗的、無意図的な教育機能である</u> 。具体的には、家庭、職場、遊びの場で学ぶ、家族や友人の手本や態度から学ぶ、ラジオの聴取、映画・テレビの視聴を通じて学ぶなどがあげられる。
主な学習機会の例	学校教育 ・小中高等学校教育 ・大学教育 等	学校外の学習機会(組織化・体系化されたもの) ・大学公開講座 ・放送大学科目履修 ・認定社会通信教育 等	学校外の学習機会(左記以外のもの) ・講演会、研修会等 ・学習者同士の相互学習 ・図書館での学習 等
学習成果の証明方法	・卒業証書、学位	・修了証書、履修証明 ・関連する検定試験の受検 ・SNSを活用した相互保証 等	・関連する検定試験の受検 ・SNSを活用した相互保証 等
学習成果活用の場面	・進学、就職 等	・進学、就職 ・スキルアップ・転職(学び直し) ・地域課題解決に向けた活動 等	・スキルアップ・自己啓発 ・ボランティア活動 ・生きがいづくり 等